

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）		講義	非常勤講師 池野 正晴	
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200102	

1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、情報通信技術（ICT）、情報活用能力等について理解できるようにする。

2. 授業の進め方

- A「授業づくりネタクイズ」（時々）、B「教育方法学の基本概念」、C「実際の授業づくり」（B、Cについては並行して扱う）、D「情報通信技術を活用した教育」の4本柱で構成。パワーポイントやOHC、DVDなどを活用する。
- 適宜、「授業づくりネタクイズ」を通して、授業づくりについて具体的に考えることができるようにする。

3. 授業計画

1. 教育方法論・そのプロローグー学生・生徒に培うべき資質・能力と「教育方法論」○×クイズー教育の哲学的基礎ー人間モデルの教育ー	10. 情報活用能力の育成Ⅱー教育におけるインターネット利用ー
2. 学習指導法と学習モデルⅠー系統学習モデルと経験学習モデル・問題解決学習ー	11. 情報通信技術（ICT）を活用した学習場面ー斉学習、個別学習、協働学習ー
3. 学習指導法と学習モデルⅡー発見学習モデルと一般的な教授・学習モデルー	12. オンライン・リモート（遠隔）による学習指導ー合同授業型、教師支援型、教科・科目充実型ー
4. 教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー	13. デジタル教科書・教材・黒板や反転学習とエドテックー
5. 教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観・子ども観の転換ー	14. 情報モラル教育ー情報通信技術やインターネットの光と影ー
6. 教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー	15. 教育方法論・そのエピローグー講義のまとめと振り返りー
7. 教材と教授行為Ⅱー教授行為と発問、指示、説明等ー	
8. GIGAスクール構想と情報通信技術（ICT）	
9. 情報活用能力の育成Ⅰー教育におけるコンピュータ利用ー	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回の授業に関して、授業をうけた後に、授業内容を振り返り、その要点をノートにまとめておく。
- 小・中学校や高校において、これまで児童・生徒として受けてきた授業を思い出し、それらの授業とのつながりを具体的な例として、ノートにまとめておく。（課題レポートとして提出）
- なお、これらの準備学修には、2時間程度の時間が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1 授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、教授行為等）について理解できる。
- 2 学習モデル（アクティブ・ラーニング型学習等）及び教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態等について理解できる。
- 3 情報通信技術（ICT）を活用する意義や理論を理解し、学習指導や校務に位置づけて説明できる。
- 4 情報活用能力を育成する意義およびその育成方法を身につけることができる。

7. 成績評価の方法・基準

ミニテスト	40%	(筆記試験)
課題レポート	40%	(被教育者としての体験授業の分析レポートー学習した用語等を駆使してー)
授業への参画度	20%	(授業への参加・参画度, 貢献度, 教師としての資質, 発言内容, コメント記入等)

8. テキスト・参考文献

[テキスト]

- (1) 池野正晴『新しい時代の授業づくり』(実際の授業づくり), 東洋館出版社
- (2) 授業前配信資料 (PDFで配信, 各自プリントアウト)
- (3) 文科省『教育の情報化に関する手引 (追補版)』, 文科省HP
※各自で, ダウンロードしておく。(授業の後半)

[参考文献]

- (1) 佐藤学『第四次産業革命と教育の未来ーポストコロナ時代のICT教育ー』, 岩波書店
- (2) 堀田龍也編『新学習指導要領時代の間違えないICT』, 小学館
- (3) 秋山・長瀬編『ゼロから学べるオンライン学習』, 明治図書
- (4) 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』, 図書文化
- (5) 金本・赤井・池野・黒崎編『算数科 深い学びを実現させる理論と実践』, 東洋館出版社

9. 受講上の留意事項

- 対話形式を重視し, 「その場に居て実例等について実際に考え, 話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。
- ペアワークやグループ討論では, 積極的に参加し, 自分の意見を表現し, 相手の意見も尊重しながら聴くようにする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は, 学校現場 (小学校教員, 高等学校校長) における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。